

令和4年度 静岡学園中学校・高等学校 自己評価

| | |
|---------|--|
| 本校の教育理念 | 1. 自主自立の精神 … 自分で考え、判断・決断し、混沌とした社会で自立して生き抜くための「自主、自立の精神の尊重」 2. 共生の精神 … 地球上の全人類が地球規模の課題を協力して解決し、すべての生命がともに生きていくことを願う「共生の精神」の尊重 3. 真理と生命を尊ぶ精神 … 生命の尊厳に対する畏怖の心と人間としての誇りを持ち、私利私欲なく真理を追究し、真摯に社会に貢献しようとする「真理と生命を尊ぶ精神」の尊重 4. 進取の精神 … 新しい時代を見据え、どんな課題が起きても果敢に解決し、進歩させようとする「進取の精神」の尊重 |
|---------|--|

| | |
|---------|---|
| 本校の教育目標 | 1. 真のエリートの育成 … 知性・品性・高い倫理観、崇高な使命感を持った真のエリートを育成する 2. 地域社会に貢献できる人材の育成 … 郷土愛と地域愛を育て、様々な形で地域社会に貢献できる人材を育成する 3. 国際社会に貢献できる真のリーダーの育成 … 多様な価値観、幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけ、日本文化を理解し、国際社会に貢献できる真のリーダーを育成する |
|---------|---|

| | |
|-------|--|
| 教育の特色 | これからの未来社会が抱える複雑で解決困難な課題を克服できる人材を育成するために、高校には全国初となる「教養科学科」を設置。従来の普通科以上に幅広く、深い知識とともに、領域横断的な視野を身につけ、「自ら考え、論理的に思考・分析し、知識を統合する力を養う。教養科学科として、本校独自の特微的な専門科目を履修・修得していく。また、外部講師及び本校教員による「シズガク・ゴールドン・タイム(SGT)」は正規の授業ではないが、生徒にとって貴重な学びの機会となっている。その他にも、国際交流をはじめとした多彩な学びのプログラムが用意されている。 |
|-------|--|

達成度 A ほぼ達成(8割以上) B 概ね達成(6割以上)
C 変化の兆し(4割以上) D 不十分(4割未満)

| 学年 教科 分掌 | 担当 | No. | 令和4年度重点目標 | 具体的施策及び計画 | 達成状況(重点目標を達成するために行った具体的事項) | 達成度 A・B・C・D | |
|----------------|------------------|--------|-------------------------------------|--|--|---|---|
| 学 年 | 中 学 部 | 1 | 生徒・保護者に信頼される、安全・安心な学びの場を提供する | ア) 孝友日誌やHR、昼食指導などを通して、生徒の変化の早期発見に努めるとともに、学年や学校で統一された明確なルールや学年目標に基づき、暖かい指導を心がける。 イ) 生活指導上の課題や情報は中学部及び生徒指導課で共有し、全体で対応を検討する。保護者との連絡も丁寧かつこまめに行い、不安を募らせないよう努める。 ウ) 学校評価における「総合的な学校への満足」の肯定回答が生徒・保護者とも90%以上を目標値とし、互いに刺激を与え合う機会や進路実現に向けた学校サポートの充実を図る。 | ア) 保護者への連絡は、生徒を通じた紙媒体の配布と、Classiを活用した直接保護者に届く連絡とを併用し、確実に伝わるよう努めた。 イ) 学校生活やSNS上における問題行動やルール違反には厳しく対応し、保護者にも理解を得られるよう丁寧に説明した。問題を抱えた生徒の情報を中学部全体で共有し、協力して対応した。 ウ) 濃厚接触などで登校できない生徒や精神的に不安定で教室に入れない生徒には、ZOOMを利用して学習機会を減らさないよう努めた。 | A | |
| | | 2 | 将来の静学のリーダーにふさわしい生活習慣と学習習慣を身に付けさせる | ア) 基本的な生活習慣を身に付けることの大切さに気付かせ、実践できるよう導く。教員は大きな声で生徒と挨拶を交わす。 イ) 朝学習や補講などを通して、目標に向けた計画的な学習を促す。中3終了までに英検準2級取得率60%、2級取得者10名を目指す。また、模試では各教科の平均偏差値50以上を目指す。 ウ) 孝友三心をはじめとする教育理念について語り、静岡学園の生徒としての誇りを抱かせる。学校行事における後輩への指導を通して、上級生としての自覚を促す。 | ア) 学校行事や学級活動において積極的に生徒とのコミュニケーションを図るとともに、孝友日誌を活用して生徒の気持ちに添った助言を与えられるよう心がけた。 イ) 規範的な生活習慣と学習習慣を身に付けるよう、中学部全員で指導方針を共有し、学年を越えて生徒指導に当たったり互いに助言を与え合ったりした。 ウ) 朝テストの結果に応じて補習や再試験を行うことで取りこぼしを防ぎ、定期テスト前には勉強会を行うことで自学習習慣を身に付けられるようにした。 | A | |
| | | 3 | 様々な体験を通して、知る・考える・表現することを楽しめる生徒を育成する | ア) 総合的な学習の時間の活動を通して、日本や郷土の歴史・文化などの理解を深める。また、朝日中高生新聞と「教養科学の樹」を活用したNIE学習や、キャリア教育の充実を図る。 イ) 特別活動では、様々な学校行事の前後指導を充実させ、話し合いや発表の機会を増やす。自らの考えをまとめた文章を新聞に投稿することで、やる気と自信を引き出す。 ウ) 希望者参加型SGTへの参加者を増やすための工夫をして積極的な参加を促し、全ての生徒が年2回以上参加することを旨とする。 | ア) コロナウイルスの影響のため、多くの制限のある中で工夫しながら、修学旅行や自然体験教室などの学校行事を実施することができたが、今後のあり方を検討すべき活動も多い。 イ) 今年度後半のSGTでは、棚田農業体験、新校舎建築現場見学ツアー、法学講座、フラワーアレンジメントなどで中学生の参加が多かった。イングリッシュキャンプは冬期も実施することができた。 ウ) 今年度から、中1でレジリエンス講座、中1と中2でシズクリプロジェクトを実施したが、初めての試みで手探り状態の面もあった。今後、これらの活動の効果が現れてくることを期待する。 | B | |
| | 高 校 1 年 | 学 年 | 4 | 授業・家庭学習など基本的な学習習慣を確立し、高校における学習スタイルの基礎を築く。 | ア) 授業において学習の基礎・基本の徹底を図りながら、孝友日誌やClassiを活用し、生徒が目標を持って積極的に授業に取り組む雰囲気を作り出す。 イ) 朝学習や週末課題等を計画的に実施しながら、家庭学習のリズムを確立しつつ、フォローが必要な生徒に対しては、個々に指導を行う。 ウ) 外部模試では、3教科偏差値54以上の生徒130人以上出すとともに、平均偏差値50以上を保つ。 | ア) 各担任や教科担任の尽力により、授業や朝テストを通して基礎的な学力はついてきている。一方で学習意欲に乏しく成績不振の生徒もいることが課題である。 イ) 新課程観点別評価の導入により、提出物への意識の高まりや授業内活動の充実が見られる。他方、グループ活動が苦手な生徒や、発達障害の要素を持つ生徒への支援が今後必要である。 ウ) 模試の振り返りや模試対策講座を実施することにより、進研模試の結果においても国公立合格ラインである偏差値56以上100名を維持している。一方で最下位層の生徒が増加傾向であるため、改善が必要である。 | A |
| | | | 5 | 部活動・SGTなど様々な活動に積極的にチャレンジさせ、それらの経験を通じて総合力向上を図る。 | ア) 生徒それぞれに様々な活動の場を提供し、情報発信をするだけでなく、生徒の適性を見極め、積極的に活動に導く。 イ) Classi・ポートフォリオを活用し、様々な取り組みに対しての振り返りを着実に重ねていく。 ウ) 緑風塾やLHRなどの活動を計画的に実施し、広い視野を養うとともに、進路意識高揚に結びつける。 | ア) 多くの生徒が部活動に所属し、積極的に活動し、実績を残している。SGTへの参加数も年度前半は低調であったが、学校生活への慣れとともに後半には向上した。 イ) 緑風塾やLHRでの活動により、実社会と教科の学習を結びつけ、深い思考と学びに向かう主体的な態度を身につけることができた。発表や小論文講座を通じて、論理的に表現する力をつけることができた。 ウ) 孝友日誌やクラッシーのポートフォリオ機能を用いた振り返りを積み重ねることができた。 | B |
| | | | 6 | 生徒が安心して生活できる環境を整え、学校生活の基礎を確立する。 | ア) 日頃の積極的な声かけや面談により、生徒の不安や悩みを早期に発見し、様々な情報を適切に共有しながら対応、生徒へのサポートを重ね、信頼関係を築く。 イ) 統一した指導により、ルールの遵守と規律ある行動に導くとともに、対話を通じて生徒の意識を高め、内面の倫理観を豊かにする。 ウ) レジリエンス講座のフィードバックを活用し、対人関係や学習への不安を原因とする進路変更を5人以下に抑える。 | ア) 新型コロナウイルス感染症対策を行うことにより、学校内での集団感染を防ぐことができた。部活動においても迅速な初期対応を行ってくれたため、学校生活への影響を最小限にとどめることができた。 イ) 授業中のスマホ使用やSNS上のトラブルなど、スマホ関連の問題が多く起こった。その都度適切な対応をとることができたが、トラブルの予防のための啓発活動により力を入れていく必要がある。 ウ) 10名以上の生徒が転退学し、留年が確定している生徒も複数名いる。担任の先生方は一人一人丁寧に対応してくれているおかげで、前向きに次の進路に向かっていく。転退学生徒を減らしていくためにも、レジリエンス講座の充実やカウンセリング体制の強化が求められる。 | A |
| | 高 校 2 年 | 学 年 | 7 | 探究系では、堅実で能動的な学びを追求させ、早期に進路への展望を持たせる。一般系では、基本に忠実に、自らがすべきことに堅実に地道に取り組ませる。 | ア) 授業において学習の基礎・基本の徹底を重ねながら、孝友日誌やClassiを活用し、生徒が目標を持って積極的に授業に取り組む雰囲気を作り出す。 イ) 外部模試において、偏差値54以上の生徒150人以上(約400人中)を維持できる学習指導を重ねつつ、偏差値45以下の学業不振者については学習習慣の改善に取り組むなど、層別に対応する。 ウ) 目的を明確に示し、朝学習や週末課題等を計画的に実施しながら、家庭学習を計画・実行させる。主体的な取り組みの材料を提示する一方、フォローが必要な生徒に対しては、個々に指導を行う。 | ア) 全員受験の模試に加え、希望者には外部模試を紹介。継続的に挑戦する意欲的な生徒も、ハイレベルを謳った補講(SGT)なども実施。 イ) 模試では、偏差値55以上の層で、11月62名→11月66名と頑張りが見られる。偏差値75以上の上位層では、7月5名→11月7名→11月9名と頼もしい結果も。 ウ) 総合的な学習では、クラスでの中間発表を経て、予選としてのクラスコンペ、学年コンペを実施。互いの探究活動を紹介しあい、学びを深めることができた。 | A |
| | | | 8 | 部活動、SGT、ボランティア活動など、様々な活動に積極的にチャレンジするとともに、自ら中心となって活動を企画し、担い、それらの経験を通して人間的な力、総合力の向上を目指す。 | ア) 生徒それぞれの積極的で多様な活動を促し、主体的に責任持って活動できるようサポートする。(生徒各自がそれぞれ一つは特記事項を持てるよう、働きかけをしていく) イ) Classi・ポートフォリオを活用し、様々な取り組みに対しての振り返り、記録を着実に重ねていく。 ウ) 緑風塾やLHRなどの活動を計画的に実施し、視野を広げ、深めるとともに、進路意識高揚に結びつける。 | ア) 運動部を中心に夏までは中堅として、また秋からは部全体の牽引役として、活動に励む姿が見られた。年度明けからいよいよ最上級生としての活動に期待したい。 イ) 生徒会活動については、文化祭、体育祭など、引き続きコロナ禍における制約下の取り組みとなったが、中心となって運営に励む生徒の姿が見られた。 | A |
| | | | 9 | 生徒が安心して生活できる環境を整え、学校生活を一層充実させる。 | ア) 感染症対策を適切に実施しながら、安心・安全な学校生活を維持する。 イ) 折に触れ、孝友三心をもとにした指導を意識しながら、生徒の意識を高め、倫理観を豊かにするとともに、学校生活・社会生活におけるルールを遵守できるように指導を重ねる。 ウ) 日頃の積極的な声かけや面談、Classiや孝友日誌などの活用により、生徒の不安や悩みを早期に発見し、様々な情報を適切に共有しながら、徐々に進路への展望を持たせる指導を重ねる。 | ア) 新型コロナウイルス対応について、年間を通して、教室クラスターと見られる感染事例はなく、マスク着用などの感染防止について、概ね満足いく取り組みができた。 イ) 11月末からの修学旅行について、一貫3クラスは北海道へ、一般9クラスは九州へ出掛けたが、道中では、奇跡的に一人の感染者も出さず、皆が元気で充実の研修とすることができた。スタッフの取り組み、生徒の意識の高さに感謝したい。 | A |

| | | | | | |
|---------|----|--|---|---|---|
| 高校3年 | 10 | 生徒および保護者が安心できる学校生活を提供する。 | ア) 生徒・保護者の声に耳を傾ける。二者面談を年間3回以上行う。学年通信を年間9回以上発信する。 イ) 生徒に関する情報を教員間で共有する。養護教諭やカウンセラーとも協力し、転退学者0を目指す。 ウ) 他者を思いやる心を育てる。生徒指導事業0を目指す。 | ア) 生徒・保護者の声に耳を傾けている。二者面談は4月に1回全員に対して行い、その後は個別に対応している。学年通信はこれまで11回発信している。 イ) 生徒に関する情報を教員間で共有している。養護教諭やカウンセラーとも協力し、転退学者は0であった。 ウ) 他者を思いやる心を育てよう意識している。ただ、残念ながら生徒指導事業は0とはならなかった。 | A |
| | 11 | 生徒ひとりひとりの学力を向上させ、進路実現をはかる。 | ア) 朝学習や週末課題への取り組みを向上させる。成績不良者0を目指す。 イ) 生徒に真の学力を意識させ、補講を充実させる。進研模試の平均点偏差値50以上、偏差値56以上の生徒数80名を目指す。 ウ) 他学年や非常勤の先生方からも支援をいただき、国公立大学合格100名、難関私立大学合格120名を目指す。 | ア) 朝学習や週末課題への取り組みを向上させるよう声を掛けたが、残念ながら年度末まで成績不良で補習や再々テストを行う必要性のある者が4名出てしまった。 イ) 生徒に真の学力を意識させ、補講を充実させた。大学入試共通テストの平均点を見ると、これまでの成績推移からは健闘したと思われる。 ウ) この報告を作成している時点では結果について判断できないが、生徒も教員もあきらめずに努力してゆく。力をつけている生徒が増えてきた。 | B |
| | 12 | 最高学年として範を示す中で、卒業生にふさわしい人間性を磨く。 | ア) 真理に服する心を養い、身だしなみや生活、学習および学習外活動への姿勢において、下級生の手本となる生徒を育てる。 イ) 目の前に立ちはだかる困難や周囲からの批判をも自己を高めるチャンスととらえ感謝できる生徒を育てる。 ウ) 卒業後も目標を全うする生徒を育てる。 | ア) 真理に服する心を養い、身だしなみや生活、学習および学習外活動への姿勢において、下級生の手本となるよう指導している。 イ) まずは教員が感謝の言葉を積極的に表すよう心掛けている。進路実現という困難を、生徒を成長させるチャンスと捉えている。 ウ) 卒業に向けて、また卒業後も静岡学園高校で学んだことを生かし、自らの一生を全うするよう指導している。 | B |
| 国語 | 13 | 自らの目標に向かって主体的に学習に取り組む生徒の育成 | ア) 個々の生徒のレベルや要求に応じたきめ細かい指導を各学年で協力して行う。 イ) 朝テストや週末課題の実施など、家庭学習の充実を促すための指導を1年次から計画的に行う。 ウ) 共通試験の平均得点が、探究系140点、その他の系110点以上になることを目指す。 | ア) 個々の生徒のレベルや要求などの情報を、学年の教員同士が連絡を密することによって把握し、対応した。 イ) 年度初めに計画を立て、学期ごとに進捗を確認しつつ着実に進めることができた。 ウ) 共通試験の内容の難化と問題数の増加によって、達成することができなかった。今後分析を共有し、来年度へ繋げていく。 | B |
| | 14 | 共通テストや新指導要領への対応を見据えた、効果的な指導方法の開発と授業改善 | ア) 活発な言語活動を通して、生徒自らが課題を見つけ、主体的に解決する資質や能力を育てる授業を実践する。 イ) 校内外の研修や研究会に積極的に参加し、共通テストや新指導要領に関する情報収集に努める。 ウ) 週一回の教科部会の時間を活用し、教材研究の充実を図るとともに、授業実践や研修の成果を共有する。 | ア) 先生方が授業中の生徒の発言や文章から課題を見つけ、様々な方法によって解決させようとする姿勢が多く認められた。 イ) 校外の研修及び校内での研究授業を通して、新課程やその教材の扱い方についての情報を集め、共有することができた。 ウ) 教科部会において教材研究や試験内容の確認を行うことで、授業の実践や教材の解釈について理解を深められた。 | A |
| (地歴・社会) | 15 | 生徒の学ぶ意欲、主体的に学習に取り組む姿勢の育成 | ア) 因果関係を重視するとともに、資料の読み取りを通して、生徒の「思考力」を育成する。 イ) 各科目の授業において、プレゼンテーションやレポート作成など、生徒の主体的学習の機会を設定する。 ウ) 各教員の授業の魅力を高めるため、各教員が1回以上研修(校内・オンラインを含む)に参加する。 | ア) それぞれの授業の中で実践することができた。共通テストや模擬試験において、生徒が前向きに取り組めるようになった。 イ) 高1グローバルヒストリーでの活動を含め、各授業においてプレゼンテーションや探究的な学習をおこなった。 ウ) 指導力育成研修や各自の研究会参加を通じて、各教員の授業指導力を高めることができた。 | A |
| | 16 | 新入試や新指導要領への対応を見据えた授業の改善 | ア) 新教育課程の授業内容を各科目において詳細に検討し、シラバスの作成を行う。 イ) 各科目の知識を関連付け、社会に見られる課題の解決に向けて考えさせる授業を行う。 ウ) 新しい授業実践や考査の改善を通じて、生徒の資質・能力を適切に評価する。 | ア) 広く情報を収集し、入試や生徒の状況に応じて検討・対応することができた。 イ) SDGsを含めて現代社会の諸課題を意識するような授業実践を行うことができた。 ウ) それぞれの授業においてプレゼンテーションやレポートを採り入れ、評価が偏らないように工夫できた。 | B |
| | 17 | 大学入試に対応できる学力の育成 | ア) 朝テストや補講系SGTを積極的に活用する。 イ) 生徒のレベル別指導や個別指導を行い、生徒の学力に応じたきめ細かい指導を行う。 ウ) 大学入試共通テストにおいて、探究系は平均70点、探求系以外は平均55点を目標とする。 | ア) 補講や朝テストによって、知識・理解の定着、および受験への対応を確実に行うことができた。 イ) 個別指導の充実に加え、レベル別・志望校種別の補講を実施することで、生徒のニーズにきめ細かく対応することができた。 ウ) 全体として難化の傾向もあり、達成できなかった科目がある。 | B |
| 数学 | 18 | 自ら学ぶ意識を持ち、主体的に学習に取り組む生徒を育成する。(指導) | ア) 高校においては「授業」「週末課題」「朝テスト」、中学においてはそれに対応する教育内容の「運動」を強く意識し、実践する。 イ) 個々の生徒のレベルに応じたきめ細かい指導を実践するため、教材のより良い活用を検討し、各学年で協力して指導にあたる。 ウ) 生徒に数学の面白さを認識させ、生徒の探究心を高める内容豊富な授業を実践するため、教材や授業展開などの工夫を実践する。 | ア) 中高ともに「運動」を意識した指導が定着してきている。 イ) 同一評価集団内では教科部会などを上手に使い議論を重ねるなど連携ができた。単独クラスでの指導に対しては個々の先生方の手ごたえなどをともに教材作成、副教材の選定ができた。 ウ) 様々な場面で先生方が情報交換をしている。 | A |
| | 19 | 多様化する入試に対応できるように指導方法を研究する。(教材研究) | ア) 基礎の確立を意識した作問を心掛ける。とくに高校1年生においては、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」を意識した作問を確実に実行。 イ) 昨年度の入試をより深く分析し、本校生徒の課題を意識しながら指導にあたる。 ウ) 新学習指導要領で導入される統計分野の授業準備、研究を進める。 | ア) 各々の先生方が工夫を凝らして作問することができた。とくに高校1年生は三観点評価を意識しての作問ができた。 イ) 基礎基本を中心に、本校生徒に合わせた指導ができた。しかし昨年度の共通テストに引っ張られすぎたため、入試問題の分析をより行っていく必要がある。 ウ) 各々の先生方に任せすぎりになってしまった。残りの期間で外部の研修などを活用していく。 | B |
| | 20 | 教員の教科観の共有、授業内容・指導方法・評価方法を検討する場として教科部会を機能させる。(組織) | ア) 教科部会や研究授業検討会において、指導方法・課題の出し方・課題の取りこみ方を共有できるようにする。 イ) 各学年での取り組みの情報交換・情報共有を行い、教養科学科の数学科としての指導方針を確立する。 ウ) 新学習指導要領に適した三観点評価法を共有する。 | ア) 5月に2人の先生に研究授業を行っていただき、その後の教科部会で情報交換をすることができた。また各先生方が工夫した授業展開をしていただいた。 イ) 各々の先生方が必要に応じて情報交換を行うことができた。ただし、「教養科学科の数学科として」はまだ不十分であると考える。 ウ) 高校1年生は初めての三観点評価ということで部会以外の時間も上手に使い、定期的に情報交換を行うことができた。 | B |
| 理科 | 21 | 新学習指導要領に適した三観点評価法の実行および授業改善 | ア) 4月中に、3観点評価の材料とする学び点の評価基準を全科目で作成し、生徒にも具体的な学習法の指導などを実行する。 イ) 定期試験のたびに、各科目の3観点評価法の実行状況を教員間で確認し合い、その評価方法の妥当性と公平性を確認し合う。 ウ) 1年間を通して、具体的な評価材料の収集状況や、生徒が提出物などを作成する上で被る負担が妥当かどうかを検討しながら授業内容などを改善し、次年度以降のシラバスも随時改善する。 | ア) 4月当初の様々な行事との兼ね合いもあり、初回授業で評価基準を伝達とまではいかなかったが、最初の1ヶ月以内には具体的な方策を作成し、生徒達に指示をすることができた。また、科目によって干渉万別だが、かなり詳細に生徒達の実力を多面的に評価することを実行できていたと考える。 イ) 昨年度までの評価方法との差異を実感しながら、都度確認を実行した。妥当性は、次年度からの理系理科の始まりも合わせて見ないと完全な評価を行えない部分もあるが、公平性については揺るぎがないと考える。 ウ) この1年間は、当初より次年度での運用を意識して改善と検討を繰り返してきた。シラバスの改善も実施出来ている。 | A |
| | 22 | 薬品の精査と管理徹底および理科室内の備品や消耗品の整理と点検 | ア) 薬品の残量などの定期的な点検を本年度も実行し、3観点評価の評価材料として、および授業効果の改善のためにつつがなく実験を安全に行える環境を整える。年3回の点検時期を設けている。 イ) 今後数年以内に、理振実行による大規模な備品補充が必要になると考えられる。そのため、基本準備として校内の備品や消耗品の整理と点検を1年間をかけて実行する。本年度は中学部の備品の点検を重視する予定である。 | ア) 当初の予定時期とはずれないことはあっても薬品の残量などは点検しながら、1年間を過ごして来た。特に劇薬の管理については例年通り細心の注意を払って行っている。ただし、薬品が充実するにつれ、薬品庫が手狭にはなりつつあるのが悩みの種ではある。中学部と高校部で別々に薬品庫を用意し管理できれば、理想だと感じる。 イ) 備品の点検や補充という点では、少しずつ行っているが、薬品と同じく様々な備品の不具合がはじめており、中学部の備品というまとまった形での総点検には至らなかった。ただし、定常波の発生装置など重点品の買い換えなど、本校の理科教育で不具合がないよう備品の管理と拡充は進めることができたように考える。強いて言えば、予算をもっと大きく取れない限りは1年間あたりで一気に扱える買い換え作業などは頭打ちにはならざるをえない。 | B |
| 教科 | 23 | 生徒の学力向上のため、組織的な指導体制をより強化する。 | ア) 共通テストの平均点を探究系は全国平均点の+10%以上、その他は-5%以上を目指す。 イ) 高校3年間を見据えた進捗調整を行う。また、定期試験の範囲を2週間前に提示することを徹底する。 ウ) 定期試験後に毎回成績不良者について情報共有を行い、必要に応じて適切なサポートを行う。 | ア) 共通テストにおけるリーディングとリスニングの合算が、探究系では平均点がおよそ127点となった。全国平均が116点であったため、目標まであと5点ほど足りない結果となった。一般クラスにおいては、平均点が95点ほどであり、目標点まではこれより5点ほど足りなかった。結果を検証し、次年度以降の指導につなげていきたい。 イ) 同一評価集団内での情報共有は十分にできていた。定期試験範囲の調整、生徒への伝達も予定通りに実施できた。 ウ) 教科部会にて適切に情報共有を行うことができた。赤点対象者には別途指導を計画、実施することができた。 | B |
| | 24 | 観点別評価における評価材料、評価方法及び評価基準を確立させる。 | ア) 高校1年部において毎週木曜日に分科会を開き、年間を通して観点別評価について意見交換を行う。 イ) 分科会で議論した内容について、教科部会にて情報共有を行う。 ウ) 学び点の中に、学年全体で評価する材料を4項目以上設定する。 | ア) 情報共有を密にし、学年統一の評価基準で評価材料を蓄積し、適切に評価することができた。木曜日の分科会は実施せず、日々常に情報共有を行う形とした。 イ) 教科部会では十分に観点別評価の基準や内容について共有できなかった。一方、評価材料や評価基準についてはデータとしてまとめており、スムーズな引き継ぎが可能である。 ウ) 「単語コンテスト」、「音読テスト」、「朝テスト」、「オンライン英会話」などを統一の評価材料とした。また、小テスト問題もお互いが共有できる環境を整えることができた。 | A |
| | 25 | 実用英語検定など、4技能資格試験におけるスコアの伸長を図る。 | ア) 中学3年生及び高校1～3年生に対し、各クラス5回のオンライン英会話を実施・運営する。 イ) 実用英語技能検定の受験での有用性について、授業内でももちろん、学年集会などの場面を活用し、英語科から生徒に伝達する機会を設ける。 ウ) 3回実施する実用英語技能検定受験者の延べ人数として、350名以上を目指す。 | ア) 全クラス予定通りに実施することができた。 イ) 高校1年生に対し、学年集会の場面で実用英語技能検定の受験を勧めるプレゼンテーションを実施することができた。 ウ) 延べ人数で400名を超える生徒が受験した。受付、運営も問題なく実施することができた。 | A |
| | 26 | 授業計画に沿って共通理解の中で、生徒の運動能力・体力向上に努めるとともに、挨拶・礼儀を重んじ協力性を高めさせる。 | ア) 種目を偏らせることなく様々な競技に触れる機会を持たせ、授業全体の充実度を上げる。 イ) 技能テストやゲームの中での課題を各自が認識し、グループで協力して解決する。 ウ) 施設の中の問題点を早めに発見し、事故のない授業を目指す。 エ) 体育授業のみならず日常生活で活かされる礼節を身につけさせる。(服装・挨拶・態度の徹底) | ア) 中心行う運動・スポーツに重点を置きながら、雨天時などでも場所を工夫し、多様な運動経験ができるように努めた。 イ) 教員間で種目や実施方法について事前に共有し、生徒にも伝達することで、十分な準備をしておこなうことができた。 ウ) 教員間でも問題点があれば早期に共有し、事故の防止に努めた。また、コロナと熱中症の対策について指導できた。 エ) ルールを守らせたり、前向きに努力させることを日々呼びかけて行動することができた。 | A |

| | | | | | | |
|-----|-------|--|---|---|--|---|
| 保体 | 27 | 新体カテストで優良校に入れるよう授業内での基礎体力づくりを充実させる。 | ア)各自が目標を決め、課題を明確にして日頃から新体カテストの点数の向上を目指して取り組めるようにする。 イ)生涯にわたる健康管理の観点から、バランスのとれた身体づくりを行う。 ウ)1学期で新体カテストを実施し、現状を理解させ秋までに苦手種目の向上を図る。 | ア)各自が目標設定シートを活用し、目標を定め、課題を認識しながら日々の体育の授業に参加させることができた。 イ)ストレッチを実施したり、簡単な筋力トレーニングなども織り交ぜながら生徒の状況に応じて実施することができた。 ウ)今年度は目標を持って実施し、時後の振り返りも実施したため、継続的な指導に繋がった。 | A | |
| | 28 | 教科書上での内容を自らの生活に生かせるように知識の定着を図り、実際の行動に繋げる。 | ア)日常生活における健康への意識を高め、自己健康管理を実践させる。 イ)運動だけではない体づくりの基本(食事・睡眠など)、自己実現の方法(人生の目標づくりの手助け)を理解させ実践させる。 ウ)交通安全への配慮の実践や、AEDの使用法をマスターし、人命救助への知識と行動力を養う。 エ)地球環境保護の実践。(節電、ごみの分別・減量など) | ア)授業の内容はもちろんの行動、関連する話題も取り入れたり、実験なども行うことで興味を持たせることができた。 イ)中学生、高校生時代からの行動が将来の基礎となることを自覚させるように、頻繁に事例を紹介することができた。 ウ)実技テスト9を実施したり、VTRを活用したりすることで、問題が身近にあり、解決できる認識を持たせることができた。 エ)図書館とも連携し、環境学習について図書室の利用の仕方やレポートの書き方なども習得させることができた。 | B | |
| | 29 | 授業を通して生活者としての問題意識を持たせ、広い視野に立ってものごとを見る姿勢を身につけさせる。 | ア)グループワーク、発表を通して意見交換をさせながら、各自の考えを深めさせる。授業前と授業後の振り返りを確認する。 イ)コロナ対応をしながらの、保育実習・調理実習などの体験の場をつくる。 ウ)生徒の参加型授業作りについての情報交換、研修会への積極的な参加をする。 | ア)コロナ対策のため、積極的にグループワークの場を設けることはできなかったが、発表する機会をもてるよう意識し意見交換の場とした。授業の振り返りをさせ、成績評価にも反映させた。 イ)学校外部への実習は控えたが、調理実習はコロナの落ち着いた時期を選び行うことができた。 ウ)デジタル化に対応した生徒参加型授業展開を意識し、実行した。研修会への参加はできなかった。 | B | |
| | 30 | 実技・実習を通して生活的自立のスキルを身につけ、協働の力を育む。また、生活に役立つ作品作りを通して、ものづくりの喜びを知らせる。 | ア)作業時短を取り入れた調理実習(中3:3回、中2:3回、中1:1回)、和食のマナー(中3)の実施。 イ)技術・木工作品(中1)、LED電気スタンド(中2)、プログラミングを利用したロボットの製作(中3)家庭科:エコバッグの製作・洗濯実習(中1)、アニマル座布団の製作(中2) ウ)浴衣の着付け体験(中1)、新生児人形での保育体験(中3)、高齢者疑似体験(中3)、(リモートなどでの)絵本・紙芝居の読み聞かせと保育実習(中3) | ア)中3:3回、中2:2回、中1:1回の調理実習をおこなった。外部講師の授業は控えた。 イ)各学年、計画していた内容の製作を行うことができた。未完成の生徒は完成を目指し最後まで頑張らせた。 ウ)中3は授業時間が少なく、体験を行う時間を十分確保できなかった。授業展開も含め来年度への課題としたい。 | B | |
| | 31 | 生徒が充実して安全に実習、製作に取り組めるように実習室の環境を整える。 | ア)備品の整備、点検、補充。包丁の手入れ、消耗品の補充を定期的に行う。ミンシンの整備点検(5月)、備品の購入は2学期までに計画的に行う。 イ)調理実習室の衛生管理を実習ごとに実施。(まな板の確認、引き出しのチェック、冷蔵庫内の整理) ウ)技術家庭科実習室の用具、教材の整理。生徒作品の管理の徹底。 | ア)備品・消耗品の補充は定期的にはできなかったが、必要に応じ行うことができた。 イ)調理実習は特に感染対策に留意し、衛生管理に努めた。 ウ)技術家庭科実習室を技術家庭だけでなく、美術・SGT・吹奏楽部で使用していたため、部屋の空き時間が少なく、用具整理や清掃がままならない状況が生まれた。 | B | |
| | 32 | 教科の本質を踏まえた授業により、生徒が生活や社会の中で芸術や芸術文化と豊かにかかわる資質・能力を育成する | ア)周囲の世界や自然環境を深く観察し、そこから「美」「調和」「多様性」「面白さ」等を感じ取ることができるしなやかな力を育む。 イ)鑑賞授業の工夫・充実にも努め、芸術文化に対し、そのよさや豊かさをどのように味わっているかを自分の言葉で表現し自分の思いや意図を周囲に伝える力を育む。 ウ)表現技能の習得のみを学習の目的とせず、インフォーマルな学習を通して生徒の内発的な表現意図を高める工夫を行う。 | ア)自然観察を通した製作や静物画や生き物の立体作品の製作を充実させることで、生徒に造形要素の深さを味わわせ、細やかな感性を養うことができた。 イ)対話やワークシートを通した相互鑑賞の活用により、生徒自らが作品を鑑賞し、見たこと、感じたことを通して、鑑賞の資質・能力を深めることができた。友人同士の多様な考えに触れることの楽しさを味わう生徒が増えている。 ウ)「生活や社会において芸術教科が果たす役割について」を課題として作品や楽曲をじっくり味わいながら答えが一つとは限らない問いを考え仲間とともに追究し合う楽しさを味わわせてきた。 | B | |
| 芸術 | 33 | 教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、社会や文化と深くかかわる学習過程を創造する | ア)2年間の課題全般を通し、日本と西洋の価値観や世界観の相違を学び、日本文化を客観視できるようにする。 イ)社会という「場」にかかわる題材を年間指導計画に設定し、制作過程や成果物の展示・掲示を効果的に校内外へのアピールを積極的に行う。 ウ)常に教科の「見方・考え方」を念頭に授業を進めることにより、教科の本質を踏まえた学習内容や学習プロセスを設定し、「深い学び」の実現を目指す。 | ア)世界の歌唱教材を味わい比較させることで音楽や言語だけでなく歴史的背景や文化との結びつきを深く捉えさせることができた。 イ)SDGsに関連したキャラクターデザインに関する課題では、現代社会が抱える課題についてグループで考えその内容をデザインに生かすことができた。コンクールで入賞する作品も見られた。 ウ)単なる創造、鑑賞という活動ではなく、様々な知識や技能を生徒が自らの生活と関わらせながら熟考する場を設けることで、教科の「見方・考え方」を育む生徒は増えた。 | B | |
| | 34 | 適切な評価基準を設定し、単元や題材のねらいを明確にする | ア)日々の授業において、生徒とのコミュニケーションを密にとり、表現に至らないイメージ、言葉に置き換えられない世界等を丁寧に見取り、一人一人の生徒への内発的な動機付けを行う。 イ)生徒が課題に主体的に取り組むことができるような評価活動を行い、部会内で協議検討を行う。 ウ)生徒一人一人が教科の本質に迫るような魅力的な課題づくりを行い、生徒の学習活動や成果物をインフォーマルに評価していくパフォーマンス評価の工夫を行う。 | ア)週時数の少ない教科であるのでワークシート、振り返り評価シートを活用し、表現にいたらない生徒の内発的な思考を取り上げ積極的に学習活動の意欲化を図った。 イ)生徒が自身の学びを主体的に振り返ることができるよう評価方法やそのタイミングを工夫した。部会内においても実践報告を行ったり授業実践の参観を行ったりした。 ウ)教科の本質を念頭に生徒が興味をもてる課題づくりを行った。特に教科の題材と実生活や社会の課題等をかけ合わせて考えることのできるような単元の中で、生徒をより主体的に学習に向かわせるための評価方法を今後も検討する。 | B | |
| 情報 | 35 | 生徒一人一人の好奇心を高め社会のリーダーとしての人材育成に必要な情報機器を、表計算による統計処理や情報整理、プレゼンテーションによる表現の道具として適切に活用できるように育成する。 | ア)中学までの習得状況に差があるので、全体のスキルの底上げができるよう丁寧に説明する。 イ)小中の学習を基礎に、身近な事例をもとに情報に関する応用力を育てる。 ウ)全体的イメージを図版やイラスト・アニメーションを用い興味を持てる学習に心がける。 | ア)基礎的な内容から丁寧に扱うことで、全体のスキルの底上げができた。 イ)ワープロ、表計算、プレゼンテーション、新しく加わったプログラミングについては、実習を通じて知識、技術の習得ができ、特にワープロ、プレゼンテーションについては他教科でも使用できた。 ウ)ワープロやプレゼンテーションソフトにイラストや、アニメーションを入れながら文書やスライドを作ることができた。 | B | |
| | 36 | 情報の収集・処理・表現を通して広くコミュニケーション能力を養い情報社会に積極的に参画する態度を育てる。 | ア)情報の収集、処理、発信の基礎的な知識の習得およびマナーとルールを周知させ、法律についても触れる。 イ)法律については事例についても取り上げ、何が問題なのかのように対応すればよいのか考えさせる。 | ア)情報機器を用いた時のマナー違反、や法律に触れる内容について実際のニュースを見ながら解説ができた。 イ)法律について事例を用いて、問題点と対策について考えさせることができた。 | B | |
| 教務部 | 教務課 | 37 | 教務課から全教員への周知事項を徹底し、全教員が共通認識を持って教育活動を行ない、教育活動の円滑な推進を図る。 | ア)定期試験の実施方法やルールなど、全教員が共通認識を持つため明文化したものを作成し、その時期に応じて随時情報発信を行うことで、全教員が共通認識を持って教育活動を行えるような体制を整える。試験監督表など重要な内容はそのイベントの7日前までに概要を発信する。 イ)常に新任の先生の見学で、いつどこで何をどのように教育活動を行うのかを明確化できるように教務課から全教員に情報を発信する。 ウ)情報の発信方法としてはメールやe教務のグループウェアを使用するが、それらに頼らず直接コミュニケーションをとって確認し合うことも大切にする。 | ア)教育課程および評価システムの変化に対応した成績処理マニュアルを確実に作成した。 突発的な状況があっても、大きな行事の6日前までには概要発信ができた。 イ)各種マニュアルは、期日や確認事項を確実に明記して情報発信することができた。 定期試験において問題回収可能なシステムにする際、答案綴りを改訂するなど迅速に対応した。 ウ)時間割変更予告版の配信を多めにし、早めから授業変更を知らせることができた。 それぞれの先生方が直接コミュニケーションを取ることを心掛けてきた。 | A |
| | | 38 | 教育活動が滞ることがないように配慮する。教務備品の管理を確実に進行。また、緑風塾・特別活動、学校行事について、学年部・学び支援課と連携し、先を見通しながら情報配信を行う。 | ア)教務備品や印刷室内の備品・印刷用紙の状況を把握し、事務と連絡を取り合って教育活動が滞ることがないようにする。特に定期試験直前は用紙の不足がないよう早めに補う。また、視聴覚機器については視聴覚ワーキンググループと連携を取り、破損などがなければ確認し、常に最善の状態教育活動が行えるようにする。 イ)緑風塾や特別活動について、学年部と連携を取り積極的に関わるようにする。また、次年度に向けて課題点を学期に1度は整理する。学力向上について、定期試験時間割を教務課からも20日前に配信し意識向上に繋げる。また、各学年部・情報管理課・進路部と連携し、Classi等を活用した教材配信等を定期的に行う。 ウ)月行事や週行事と日課について情報配信を確実にし、特に非常勤講師への日課連絡に漏れがないように配慮する。全体への月行事は前月20日までに、非常勤の先生方への週間予定は前週火曜日を目安に配信することを目指す。また、月末に行うe教務への出欠入力について、点検と未入力者に対する督促を確実に進行。督促後、3日以内に入力の完了を目指す。 | ア)毎月印刷用紙や備品等の確認を行い、教育活動が滞ることがないようにしてきた。 視聴覚担当や情報管理課と連携を取り、教室にiPadスタンドを導入するなど早めの対応ができた。 イ)定期試験20日前の時間割配信を確実にし、早めの取り組みを促すことができた。 高1緑風塾は次年度に引き継げるような報告書を作成した。 ウ)月行事の前月20日までの配信はほぼ確実にできた。非常勤の先生方への連絡も滞りなく行った。 月末のe教務未入力督促も毎月確実に進めた。 | A |
| | | 39 | 情報の発信方法としてはメールやe教務のグループウェアを使用するが、それらに頼らず直接コミュニケーションをとって確認し合うことも大切にする。 | ア)教務課として行う任務を可視化し、業務実施状況を把握共有できるようにする。また、日課業務など教務課以外の先生方と協力体制を強化するため、年間の教務課スケジュール表と日々の業務内容をまとめたものを作成し、業務を可視化することで先を見越した業務を行えるようにする。変化する学校行事や教務システムに合わせ、学期に1度はスケジュールの見直しを行う。 イ)授業日は朝7:30に集合し、日課・時間割変更・代行を確認し合う。また、時間割作成や試験本部の運営などチームとして行う業務については、役割分担を工夫し、チームとして有機的に機能できるようにする。 ウ)2週に1回を目安に教務部長・情報管理課長・研修課長との会議を行い、それぞれの業務の把握確認を行う。さらに日程調整、e教務関連など連携すべき事項を教務課課員と共有し、迅速な業務遂行に努める。 | ア)内部で共有している日課スケジュールを定期的に更新し、先の仕事を見通せるようにした。 イ)朝7:30の時間割変更点検を毎日確実に進めることができた。 高校入試本部ではよりスムーズな運営ができるよう、当日のスケジュール見直しを先行して進めた。 ウ)部課長会議の時間を取るようになってきたのは反省点。ただし連携は多く取れていると思う。 | A |
| | 情報管理課 | 40 | 静岡県「Society5.0での学びを支える先端技術活用教育ロードマップ」・法人の新高校整備計画・情報セキュリティ基本方針・インフラ整備提案依頼書などに従った情報システムを構築する。 | ア)インフラ整備を行い生徒用のPCを十分に活用できるようにする。 イ)中学部生徒用端末を220台を追加し、デジタル教科書の実証実験を2教科2学年で行い、端末、ネットワークの検証を行う。 | ア)インフラ整備:生徒用のPCを十分に活用できるようにした。コロナ感染及び濃厚接触者についてオンラインを用いたハイブリッド授業に対応することができた。(ZOOM/Google classroom)。教員用iPad140台の更新、教員室他のプリンター7台を更新を行い業務改善を行った。 イ)中学生生徒用端末が220台追加され、デジタル教科書の実証実験を2教科2学年で行い、端末、ネットワークが各教室で同時に接続できることが確認された。 | A |
| | | 41 | 教務課・研修課・進路課と連携し、各アプリケーションにおける操作、データ連携を高める。 | ア)出欠・成績データ・Classiの管理・・・学年ごとの分担できめ細かく対応する。 イ)学年ごとの処理の担当を決め、担当を中心として業務を行っていく。 | ア)出欠・成績データ・Classiの管理・・・学年ごとの分担ができ、アカウントの再設定、定期試験・成績の入力、生徒用端末の利用など学年ごとに対応することができた。 イ)学年ごとの業務の違いに対して情報関連機器の予約調整や移動など準備の中心になるなど柔軟に対応することができた。 | B |
| | | 42 | 教員のデジタル格差の是正と、データ処理技術の普及。 | ア)機器活用のための情報を会議・メールなどで発信していく。 イ)各種研修会を学期1度程度企画し、Classi、e-教務、classroomの使用法についてわかりやすく普及していく。 | ア)オンライン授業、オンライン英会話、家庭科、保健、GH、緑風塾など授業において各種機器活用の際には、e-教務グループウェアで施設予約を活用しながら教員が効率よく活用できた。 イ)新任教員の研修において各種機器の貸与、設定などを行うとともにアプリケーションの取り扱いなどを教務課、研修課とともに共同で行った。その結果、多くの場所で、機器を活用し、体験入学、入試説明会などの機会にzoomを使い動画を通して配信するなど機器の扱いをスムーズに行うことができた。また、欠席者の遠隔授業への対応もスムーズに行うことができた。e-教務の活用についても、教務課と連携して各種データの入力を教員単位で適切に行うことができた。 | B |

| | | | | | |
|-------------------|----|--|---|---|---|
| 研 修 課 | 43 | 教員の授業改善および授業力向上を図る。 | ア) 授業評価アンケートの結果から課題を把握し、PDCAサイクルを実践することで継続的な授業改善を図る。「総合評価7項目平均」および特に重要な項目である「学習効果」について全教員平均で75ポイント以上を目指す。 イ) 年2回、保護者に対して授業を公開し意見を募る。また、外部講師を招聘しての研究授業を実施し、授業の講評、検討会を実施する。研究授業については、1回あたりの参観者10名以上を目指す。 ウ) 初任者は一学期に研究授業を実施し、早期の授業力向上を図る。 | ア) 授業評価アンケートを年2回実施した。全教員が授業改善計画書を提出し、1回目のアンケート結果で判明した改善点について具体的な対策を講じてもらった。2回目のアンケートでは対策の効果を検証し、次年度以降に役立ててもらう。学習効果の75ポイント達成率は50%で現状維持であった。 イ) 一般教員対象の研究授業(授業力育成研修)を年間6名実施した。外部指導教員を招聘し直接アドバイスをいただくとともに、その後の教科部会を通して授業力向上の手法を共有した。 ウ) 初任者対象の研究授業(初任者研修)を年間4名実施した。初任教員の授業力を確認するとともにベテラン教員からのアドバイスにより授業力の向上を図った。 | B |
| | 44 | 校外研修・校内研修を通して、教員の資質能力の向上を図る。 | ア) 静岡県私学協会主催の校外研修は原則参加し、その他資質向上に資する校外研修や自主的研修を奨励する。また、大手予備校等で実施する教員向けセミナーへの参加を促していく。 イ) 教員の要望を把握し、必要な校内研修を企画する。特に全体研修については、研修後にアンケートを実施し研修の満足度や問題点を調査する。肯定意見75パーセント以上となるような研修を企画する。 ウ) 初任・若手教員に対し、管理職、教科、学年部などからのサポート研修や助言を行う。 | ア) 教員全体研修を年6回実施した。今年度はレジリエンス研修のほか、本校教員による優れたノウハウを紹介する研修等、新しい研修を試みた。次年度以降も継続していくことで、ノウハウの蓄積と共有を目指す。 イ) 初任者に対する教務ガイダンス、管理職講話、教頭面接、作問研修等、各種研修を通し初任者の資質能力の向上を図った。その他、オンライン研修システム「Findアクトイブナー」にて教員個人が研修を行った。今年度視聴回数は、延べ1593回であった。 ウ) 私学協会研修に30名、予備校研修に11名、その他校外研修には6名が参加した。学校運営や教科指導、生徒指導等の能力向上を図った。 | A |
| | 45 | 教務部の各課と連携し、円滑な業務遂行を図る。 | ア) 教務課との連絡を密にすることで、研究授業や研修時の時間割変更を確実に進行。 イ) 情報管理課と連携し、研修コンテンツの拡充を図る。また、オンライン研修についても協力し、円滑な運営を図る。 | ア) 教務課とは教務ガイダンスや教育実習ガイダンスの説明、研究授業や教育実習での時間割調整、授業評価アンケートの時間割作成等多岐にわたって連携した。 イ) 情報管理課とは教務ガイダンスや教育実習ガイダンスの説明、授業評価アンケートでのパソコン入力指導、教育実習における情報機器の準備・片付け・操作方法の説明等、多岐にわたって連携した。 ウ) 上記以外にも、研修業務の準備や片付け、運営で人員が不足した場合は各課から人員を回してもらった等協力した。 | B |
| 生徒指導課 | 46 | 生徒の自主性、主体性の育成を目指した生徒指導。 | ア) 生徒会活動への指導と支援により、生徒の自主性・主体性を育む。 イ) ボランティア活動の指導と支援により、生徒の自主性主体性を育む。 ウ) 部活動の活動や大会・発表会のアナウンスを行い、お互いに応援し合う雰囲気づくりを行う。 | ア) コロナ対策を行い、縮小した形ではあったが、生徒会や体育委員を中心に静学祭・体育祭・球技大会を行うことができた。 イ) 生徒主体でルコ地震募金を行った。迅速な対応ができた。その他、東北ボランティア、献血ボランティアを行うことができた。 ウ) 生徒会中心に部活動紹介動画作成、クラスシャツの取りまとめ、静流の作成等を行うことができた | A |
| | 47 | 学校生活における基本的な生活習慣の習得、自らルールを守る心づくり。 | ア) 風紀委員・交通安全委員による活動を活発に行い、生活習慣の改善を促す。 イ) 登校指導による交通指導・声かけ運動の継続、学校周辺の見回りにより、学校生活に対する基本的な生活習慣の基盤、安全を確立する。 ウ) 学校生活アンケート(いじめアンケート)を実施し、安心して学校生活を送る環境づくりを行う。 | ア) 風紀委員長の朝礼(ZOOM)での呼びかけ、風紀委員の各クラスでの呼びかけ活動を行った。 イ) 登校時の交通指導を毎日実施した。 ウ) 生地研・校外教育連盟等の会合で、他校との情報交換を行い、生かすことができた | B |
| 生活部 保健衛生課 | 48 | 明るい心を支える、健康な体を作るため、生徒自身に健康を意識させる。 | ア) 各種健康診断を実施する。 イ) 日常における観察(HR、授業、課外活動、保健室など)を行う。生徒には、毎日、検温をさせ、健康観察記録用紙を担任に提出させる。 ウ) 健康維持のための指導を行う。 | ア) すべての健康診断を終えた。さらに、健康診断の結果や、その後の再検査の状況、および、生徒の保健室やスクールカウンセラー利用状況などをまとめた資料を作成し、2月の学校保健委員会にて、学校医、薬剤師と情報を共有でき、アドバイスもいただいた。 イ) 健康観察記録用紙を毎月作成し、印刷を行っている。生徒が毎日記入するよう、クラス担任に確認をお願いしている。8月分からは、月末に保健委員が保健室に提出し、保存期間についての情報共有もできた。 ウ) 保健委員会を開き、保健室の使い方の指導、文化祭、体育祭での消毒の徹底、献血の周知などを行った。さらに、保健委員には、健康診断の補助という役割を与え、健康診断の大切さを伝えた。保健室前などに健康に関するポスターを掲示している。 | A |
| | 49 | 感染症を予防し、感染症に関連する対策を行う。 | ア) 各教室に「保健だより」(月1回)を掲示してもらう。啓発ポスターを掲示する。 イ) 生徒会保健委員会を通じて、生徒に対する啓蒙活動を行う。 ウ) 感染状況の見える化(インフルエンザ感染者数を職員室前に掲示するなど)、手洗い消毒液の設置(各階の水道場と食堂に2個ずつ、その他、図書室前、事務の入口、体育館など、必要に応じて設置)、本校に適した対策を実施する。 | ア) 毎月1回「保健だより」を作成し、保健室前に掲示している。また、生徒一人一人にもいきわたるよう、人数分を印刷し、クラスでの配付を担任に依頼した。来年度はブレンド(学校支援アプリ)を用いた配信を考えている。校内では、寒い中でも窓を少し開けるよう意識できている。 イ) 4月、9月に保健委員会を開催し、感染症予防の呼びかけを各クラスで行うよう保健委員に指導した。食事の前後など教員が指導する場面もあるが、生徒は概ねマスク着用ができています。 ウ) 各教室、各階の手洗い場、食堂、図書館、体育館、事務などに手指消毒液を設置し、補充をしている。保護者が来校する日や、来校者の多い日は、消毒液の設置場所を増やしている。昼休みの食事の前に、手洗いうがいをする生徒の様子が見られる。 | A |
| | 50 | ストレスを受けた後などでも、自ら立ち上がろうとする生徒を温かく見守り、一人では立ち上がれないような生徒には手助けをする。 | ア) 5月にClassiを用いて「こころの健康実態調査」を実施する。「いじめアンケート」の結果から生徒の様子を判断する。手助けが必要な生徒に対し相談を行う。 イ) 学年主任・クラス担任・養護教諭・スクールカウンセラー・教育相談担当の情報を共有する。中学、高校1年、2年、3年の4グループについて、それぞれの主任(G=学年)、養護教諭(H=保健室)、保健衛生課(K=教育相談担当)を主体とした情報共有の場(KGH)を月1回程度設ける。 ウ) 学年間での生徒の実態の情報共有(学年部会にて、月に一回程度。)を促す。また、スクールカウンセラーからの助言をもとにした生徒への対応を行う。中学1年と高校1年の探究クラスに対して、外部講師によるレジリエンス(心の回復力)教育を行う。 | ア) 5月に「こころの健康実態調査」を実施し、心配な生徒に対する個別面談を、生活部の教員で協力して行った。生徒のレジリエンス(心の回復力)の向上のために、教員および一部の生徒は、講座(年4回)に参加した。今後はソーシャルワーカーによる専門的な対応が必要かもしれない。 イ) 中学、高1、高2、高3の4つのグループに分け、それぞれ月に1回ずつ、教育相談(KGH)を行った。教育相談担当者(K)、学年の代表者(G)、保健室の養護教諭(H)だけでなく、時に管理職、関係する担任にも参加していただき、配慮の必要な生徒などについて相談した。 ウ) 保健室来室記録、出欠管理表などを毎週作成し、管理職、学年主任、中学教育相談担当者との共有ができた。スクールカウンセリングのお知らせも毎月行っている。スクールカウンセラーに、授業の様子を見ていただいた。「レジリエンス」という言葉を浸透させることができた。 | A |
| 安全整備課 | 51 | 学校施設の日常時・非常時における機能的な防災安全体制の構築。 | ア) 地震防災・災害対策計画(地震対策マニュアル)の運用及び、防災倉庫の管理 イ) 一斉メールの利用促進も含めた災害への対応、静岡県防災アプリと本校防災計画の連携 ウ) 感染症対策に留意しつつ、学期ごとに異なる防災訓練の実施(定番の訓練と抜き打ち訓練)、生徒の活動を主とする訓練の実施 | ア) 地震防災・災害対策計画(地震対策マニュアル)の運用及び防災倉庫の管理だったが、防災倉庫の整理は順調で、台風災害にも有効活用ができた。 イ) コロナ過もあり一斉メールの頻度が上がった分、緊急感が薄れ未読者が多く残っている。CLASSIの廃止に伴い、メールの利用緊急度設定を行うべきか。 ウ) 避難訓練は今回は抜き打ち訓練の情報漏洩もなく全校避難を実施したが、とても良い実施となった。 | A |
| | 52 | 定期点検や危険箇所への対処を万全なものとし、事故発生のないよう施設・設備の改善、保全を図る。 | ア) 計画的な生徒用机イスの入れ替え。(故障があり生徒がけがをする恐れのあるものを早期撤去)継続事項 イ) 校舎内・グラウンドなど学校施設の定期点検の実施(施設のみならず、構造的に事故の恐れのある場所の解消) ウ) 生徒による清掃活動が滞りなく行えるよう、用具の点検・補充・改善を行う。清掃活動を効率よく行うための用具の選定 | ア) 文化祭の時に入れ替え、新規分と必要分がバランス合わず、だままだまし壊れかけを使用している感がある。 イ) 図書館棟3階新教室周りの安全対策を緊急対応・新教室周辺の安全対策、校門出入口の事故防止措置を行う。 ウ) 清掃活動については、例年通り順調にできている。 | A |
| 掌 進路部 進路指導課 | 53 | 進路シラバスに基づいた進路指導計画を実施するとともに、進路指導室の活用を促す。 | ア) 進路行事の目的を各学年進路指導課教員を通じて生徒に周知し、生徒の進路意識を高め効果的に実施する。 イ) 教科や学び支援課との連携により、生徒の進路実現にむけて多方面からのバックアップを行う。 ウ) 進路指導室について生徒に周知し、進路指導室に入室する生徒の相談に積極的に応じる。 | ア) 進路シラバスに基づきそれぞれの学年の進路担当の先生方が主体的に動き、模擬試験、小論文講座、進路講演会等、ほとんど全ての行事を計画通りに実行することができた。(ナース体験については今年度も新型コロナウイルス感染拡大の為、実施されなかった。)問題点を共有し、改善点を次年度に反映させる予定である。 イ) 高校3年生を中心に年度初めに進路指導室見学ツアーを実施し、進路指導室の活用を促した。小論文指導においては、過去問等の資料のある場所等を希望者対象に示し、利用を促した。 | A |
| | 54 | 大学進学数値目標(国公立大学100、難関私立大学120)達成のために、補講を計画・実施するとともにテスト分析とフィードバックの仕組みを構築する。 | ア) 補講系SGTを効果的に実施するとともに、高校3年生の夏期・冬期特別授業中の補講や家庭研修中補講の充実を図る。 イ) ファインシステムやコンパス、クラッシーにより、教員および生徒に振り返りの機会を提供する。 ウ) 学年部との連携により、テスト分析会や講演会を企画実施する。 | ア) 年度始めに進路系SGTの担当を決め、時間割を作成し、教室掲示をした。それぞれの講座で一定数の参加者がいて、学力向上に努めることができた。 イ) 高校3年対象に夏および冬の特別授業後に午後補講を計画し、実施することができた。また、1月の共通テスト後の補講も教務課と協力し、計画・実施することができた。 ウ) 各定期テスト後に、先生方にテスト分析を実施していただき、各授業においてフィードバックをしていただくことができた。 | B |
| | 55 | 大学入試改革に関する情報収集を行い、進路指導計画へ迅速に反映させる。 | ア) 入試改革に関する研究会に積極的に参加し情報収集に努める。 イ) 教員全体での小論文および志望理由書指導体制を確立する。 ウ) 学年や教科と連携し、情報を共有する。 | ア) 予備校やベネッセの担当者および各大学の学校訪問の方などから、入試改革に関する情報を聞き出し、先生方と共有することができた。新科目である「情報」について更に調べて行く必要がある。 イ) 共通テストも3年目を迎え、各科目の傾向も固まってきた。各教科で良かった指導法等を共有していただき、指導力向上させることができた。 | B |
| 進路部 学び支援課 | 56 | SGTの外部講師講座は、毎年新しい講座を加えると同時に見直しを図り、体験を通じて各生徒の特技を増やしたり高めたりすることで、今後の生活で生かせる講座を提供できるようにする。 | ア) 部活動や生徒会との共同開催を取り入れることで、部活顧問の人脈を活用した外部講師を招き、部活動に所属する生徒に加え、部活に所属しない生徒にも外部講師のレッスンを一般開放することで、学校全体で質の高い専門講師の指導を受けられるようにする。 イ) 共同開催の例として、「アナウンス・ナレーション講座」(生徒会放送局)、「プログラミング講座」(パソコン部)、「演劇講座」(演劇部)、「ポピュラーピアノ講座」(合唱部・吹奏楽部)、「科学実験講座」(理科部)、「歴史研究講座」(歴史研究部)を原案として、各部顧問と企画を練る。 ウ) 外部講師を呼びやすいように、謝礼の金額や支払い方法などの料金体系のガイドラインを定め、学び支援課と各部顧問との連携を取りやすくする。 | ア) 部活との共同開催を試行実施したことで、部活動に所属する生徒が部活にも関連する専門家の講義を受講することで、生徒にとって直接役立つ内容の講義を提供できた。 イ) 部活との共同開催を受け、静岡産業大学の教授陣による講座も実施することができ、静岡学園グループ全体で組織的にSGTを行うことができた。 ウ) 国際交流課との共同開催による「グローバルコミュニケーション」、総務管理課との共同開催による「帰ってきた上野千鶴子先生」を実施したことで、今までにない講座を提供できた。 | A |
| | 57 | SGTの講座(外部講師と内部講師の両方)の広報活動を工夫し、SGTの参加率を高める。 | ア) 部活動や生徒会との共同開催を取り入れることで、部活顧問や部活に所属する生徒が一般生徒への参加を呼び掛けられるようにする。また、共同開催する部活に所属する生徒の参加が確保されることで、全体としてのSGTの周知や参加人数を高める。 イ) 掲示用のSGTのお知らせ(チラシ)の書式を統一し、「いつ・どこで・だれが・どのような講座を」行うのかが一目で確認できるようなものに改善を図る。 ウ) SGT用の行事予定表を作成し、「いつ・どこで・どのような講座を」行っているのかを生徒・教員・保護者も確認できるようにする。 | ア) SGTの案内チラシのフォーマットを統一したことで、必要な情報がすぐわかるように改良した。また、昼休みの校内放送でも呼びかけを行った。“このような生徒にオススメ”という項目を設け、参加意欲を高める工夫をした。 イ) 部活との共同開催を試行実施したことで、部活動に所属する生徒も部活の時間を活用してSGTに参加できるようにしたことで、部活動に所属する生徒のSGT参加機会を設けた。 ウ) 実施したSGTの様子を写真に収め、活動の様子を学校HPや校舎内の掲示板に掲載することで、実施した活動内容の広報活動を行った。写真には活動内容の説明文を付けることで、どのような活動をしている場面なのかを疑似体験できるように工夫した。 | A |

| | | | | | | |
|-------|-----|----|---|--|--|---|
| | | 58 | 分掌組織として機能するように、分掌内や関連する分掌外の組織との連携を図る。 | ア)SGTの企画・運営について、担当者のみに一任するのではなく、課員全員と意見交換や議論を経て吟味し、より質の高いSGTを提供できるようにする。 イ)分掌外の連携の例として、「緑風塾」は各学年部、「外部講師によるSGT」は部活顧問に加え、各教科や各学年部との情報交換により、担当者1人では企画発案できないようなSGTを実施できるようにする。 ウ)複数のSGTの講座や学校行事がバッティングすることで、SGTの参加率が下がるため、むしろSGTの講座を精査し講座数を絞り込み、各分掌と連携し行事のバッティングがないように日程を調整することで、質の高いSGTに参加しやすくする。 | ア)分掌外とSGTの共同開催を行うことで、学び支援課だけでは実施できないような企画を立てることができた。 | B |
| 総務管理課 | | 59 | 入学式、始業・終業式、開校記念式・講演、芸術鑑賞、体験入学、入試説明会などの行事を、丁寧に遂行する。 | ア)式典や朝礼などは、教室でズームを活用して行うことが多くなると思うが、表彰者の大会名や氏名に加え、写真や動画を画面共有するなどして、ズームだからこぞできる運営を心掛ける。 イ)三回行われる一日体験入学と入試説明会を、これまでの経験を下し、本校の魅力が伝わるよう更なる改善・工夫を施しながら、私たち教職員も自身の魅力を再確認することができる行事にする。 ウ)本校の流れとして大切に継承するもの(伝統)と、「本校の常識」に囚われることなく斬新に改めていくもの(革新)との両面から、式典や行事を見直す。 | ア)入学式、始業・終業式、朝礼、開校記念式・講演、3回の体験入学、入試説明会は、何らかのカタチでズームを通して行った。多くの人数を対象に行事を進めるにあたり、リモート技術を駆使した方が合理的効果的な面が多々あるもの、一堂に会することでしか形成されないものがあるようにも感じるようになってきているので、ライブとリモートのバランスを考えながら企画をすることが大切に思う。 イ)来年度の入学式は、式後のオリエンテーションを保護者だけに実施する予定。体験入学では、教室で使用する資料をラックごと仕分けして用意したり、動画もリモートで操作・放映するようにした。募集要項は入試説明会で配布するようにし、3回の体験入学の均質化と体験入学との差別化を進めた。入試説明会は個別相談会を充実させ、複数の教員で対応できるようにしたなど、工夫をして運営した。 ウ)5月に行われた開校記念式典では、記念講演の講師として、東大の名誉教授、社会学者にして、日本におけるジェンダー研究の第一人者であり、女性学の草分けとして現在もおお、世の中に向け積極的に発言を行なっている上野千鶴子氏を招いて行うことができた。またとない機会を生かすべく、事前学習としては、東大入学式の式辞を紹介したり、事前の質問を受付たりしながら、当時は3名の生徒が登場し、彼女に直接質問をぶつける機会を設けることができた。 | A |
| | | 60 | PTAや同窓会などの活動を通じ、ご縁を結び、絆を深めるとともに、良質な文化資本を蓄積する。 | ア)同窓会においては、昨年度、「総会」を開催することができた成果を生かし、ホームページの立ち上げやSNSを通じた広報の拡充と運動させながら、会員に活動が浸透するよう心がける。 イ)PTAの活動は、過負担に陥ることなく、かつ名前ばかりの過小な活動にもならないよう、程よい交流、保護者の視点を学校活動に取り込めるよう心掛ける。 ウ)文化資本の蓄積に関しては、第一線で活躍している様々なジャンルの方々を講師に、「大学訪問授業」と称した講座を長年に渡り実施(その成果は書籍にまとめられ出版されている)している神奈川の桐光学園に、どのようにして講師を依頼しているのかなどなど学びに出かける。 | ア)同窓会総会は、前会長の小林洋介様や前副会長の中村徹様、3代校長牧野秀則様などにもご参加いただくなか、昨年度に引き続き開催することができた。橋本会長の主導のもと、同窓会のHPも開設することができ、一期3年の任期を締めくくるにふさわしい業績を残すことができた。 イ)以前から抱いていた神奈川県内の桐光学園に視察に出かけることが叶い、「大学訪問授業」を参観し、これまで通算350名以上の大学教員・作家・芸術家などを招くことでこの企画を進めてきた中野校長にお話を伺うことができた。その成果は、来年度開校記念式における記念講演に、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授小川さやか氏を招くことに繋げることができた。 ウ)本年度、開校記念式において記念講演をしていただいた上野千鶴子氏に、番外編として、SGT「帰って来た上野千鶴子先生」と題し、ズームで上野先生と教室を繋ぎ、座談会を行うことができた。企画は、全校生徒に告知したが、結果5名の生徒のみの参加に止まったものの、今後、このような形式での企画を重ね、啓蒙する機会を増やしていきたいと思う。 | A |
| | | 61 | 仕事を分担しながら進め、仕事を通じて結ばれる方々のそれぞれの思いやご苦労に触れ、また仕事の意味合いなどに対する理解を深める契機となるよう心掛ける。 | ア)始業式・終業式・朝礼・保護者会は八木香先生が中心となり準備。開校記念講演及び芸術鑑賞の演目は「総務管理部」を横断して、部員全体で意見を募り講師や演目の選定に務める。 イ)学校案内をはじめ、各種リーフレットや動画など、広報コンテンツの拡充と整理をし、本校の受験を考えている生徒に、学校生活の息吹を伝えるよう心掛ける。 ウ)同窓会との連携を更に強固にし、本年度は、同窓会員の長老である石井先生と棟梁課長を中心に、懸案であった「全国優勝の記念碑」を具現化できるよう努力する。 | ア)私学展においては、担当を若手の方々にも依頼した。説明のガイドラインを渡すと、当時はアンダーラインをして臨んだり、来場者からの質問を受けることで、改めて本校の在り方を見つめ直す機会にもなれたと思う。彼/彼女たちには、12月、志望校を確定するための本校に訪れた受験生を前に実施した個別相談会にも相談員の一人として参加してもらい、私学展とはまた違った緊張感の中で、志望校を確定していく現場に立ち会ってもらったことができ、高校の役割を再認識してもらったと思う。 イ)体験入学では、授業を担当する講師が、「学校案内」などの資料を教室に運び入れますが、最近では、教室ごとラックを用意し、必要な資料がまとめられている。参加者へのお土産として、ボディカラーが5～6色色とりどりのシャープペンが用意されているが、程よく混ぜ込みケースに入れてあり、参加者に選んでももらいやすしておくなど、授業を担当する講師の身になって準備が進められ、事務方のそのような支援が、講師には授業に注力しやすい環境を整え、教員と職員が一体となって行事に臨むようになってきている。 ウ)修学旅行は、北海道と九州に別れての実施でしたが、北海道では「NASAより宇宙に近い」といわれ、ロケット教室を展開している植松電気に訪問し、植松社長の講演を聞く機会を得た。講演が終わると何人もの教員から、「開校記念式の記念講演にいいのでは」と声を掛けられた。記念講演が教員の頭の隅に認知されているようで嬉しかった。 | A |
| | | 62 | 読書リテラシー及び資料活用のための情報リテラシーを育成する。 | ア)新入生に対する図書館ガイダンスの実施。 イ)図書館利用授業に際して、司書より図書検索の方法のレクチャー、オンラインデータベースの活用指導。 ウ)校内ビブリオバトル大会の開催、県高等学校ビブリオバトル大会及びPOPコンクールへの参加。 | ア)中学校と高校の一年生全員に対して、図書館利用オリエンテーションを実施した。「図書館ガイド改訂版 図書100選」を配布して、読書や調べ学習による図書館に活用を促した。来年度に向けて、「図書館ガイド改訂版図書100選」の改訂作業を行った。 イ)総合学習(緑風塾)や図書館授業にあたって、関連書籍にレファレンスや蔵書検索のサポートを行った。また、オンラインデータベースの紹介や活用方法についての紹介を行った。 ウ)毎月「図書館のお知らせ」(教室掲示/web掲出)を発行し、読書への関心や興味が高まるよう促した。 | A |
| | | 63 | 生徒図書委員会活動を支援する。 | ア)図書委員による選書、POPの作成と展示。 イ)文化祭における、ビブリオバトル校内予選の実施。 ウ)図書委員による企画展示の実施。 | ア)昼休みのカウンター当番による図書の貸し出し・返却作業や蔵書登録作業などの図書館実務を通して、生徒の興味・関心を喚起した。 イ)図書委員がお勧めの本を一冊選び、POPを作成して全校生徒に公開することによって、本への興味を喚起したほか、文化祭でのビブリオバトル実施を支援した。 ウ)行事に伴う展示の作業補助や、月ごとの企画における図書の選択・紹介を行ってもらうことで、日本の伝統行事に関わる啓発に携わった。また、昼の放送で生徒のお勧めの本の紹介を行った。 | A |
| | | 64 | 図書館利用活性化のための環境整備と広報活動を充実させ、調べ学習における図書館利用や家庭での読書推進をはかる。 | ア)「図書館のお知らせ」を通しての読書啓蒙、話題や注目本の紹介。 イ)新着本コーナーでの月次新着書籍の紹介と、西側展示スペースでの月次新着書籍の紹介。 ウ)中央掲示板での各種企画、カウンター前での時事関連注目書籍の紹介。 | ア)総合学習や各教科における授業で活用できるような選書の充実を図り、年間約1,500冊の書籍を整備した。 イ)「図書館のお知らせ」や通路側の展示スペースで新着本を案内することによって、読書への興味喚起を進めた。 ウ)掲示や特集コーナーを積極的に展開したほか、進路の模索や大学入試にも関わる図書や資料の整備や展示を進めた。 | A |
| 国際交流課 | | 65 | コロナ禍の中ではあるが、国際交流プログラムを活性化させ、生徒に様々な機会を提供する。 | ア)交換留学事業を安定させるためホストファミリーバンクについてホームページを使い、お知らせする。 イ)国際交流課のSNS Accountを作り派遣事業の宣伝や説明等を積極的に情報発信することを検討する。 ウ)ウクライナ語など英語以外の言語を学ぶ機会を確保するため、SGT講座の開講を準備する。 | ア)SGTグローバルコミュニケーションを活用し、静岡福祉大学学長増田樹郎先生を講師に迎え、「SDGsと(福祉の 思想)～ネガティブ・ケイパビリティの視点」から～と題し、福祉における最先端の考え方について御講演いただいた。 イ)コロナ禍にあり実施が危ぶまれていたニュージーランド優秀生徒派遣プログラムではあるが、NZでは9月になりVaccine接種の義務も撤廃され、ホスト校はNZ北部の自然豊かな観光都市 Taupoにある公立学校 Taupo nui Atia Collegeに決定し、3月2日にオリエンテーションを行い、3月18日から研修を実施する。 ウ)トビタテ! 留学JAPAN!についてClassiを通じて紹介したところ、ニュージーランドのマオリの言語・文化についての探究したいという強い希望を持つ高校1年生の生徒から1名の参加希望者が出た。 | A |
| | | 66 | 中・長期留學生の受け入れの検討。特にウクライナ避難民の受け入れについては積極的に検討する。 | ア)派遣斡旋団体との連絡をとり、コロナ禍終了後すぐに留学生を受け入れられる体制を整える。 イ)留学生が来た際は、ALTIによる中・長期留學生の日本語指導を行う。 ウ)中・長期留學生への月1回のインタビューを通して、諸問題を一緒に解決する。 | ア)中・長期の留學生の受け入れについては、2月現在、日本の入国基準も緩和されつつあるが、高齢化が進む日本では感染リスクも高くホストファミリーによる留學生の受け入れについても厳しい状況にあると思われる。したがって今年度は実施しなかった。 イ)EIL(日本国際生活体験協会)を通じ、ウクライナ避難民との国際交流が出来ないか依頼した。受け入れの前にSGTを利用し、文化交流から始めることを検討中。 ウ)ハワイのMcKinley High Schoolとの交換留学が出来ないか同校に勤務する人物を通じて検討していただくように打診した。 | B |
| | | 67 | スケジュールの視覚化と業務の共有。 | ア)校内ネットワークを使用し、国際交流課の文書を共有する。 イ)各行事前に、国際交流課員間でしっかりコミュニケーションをとる。 | ア)ニュージーランド優秀生徒派遣プログラムについては、業者との打合わせ内容をその都度報告書にまとめ、国際交流課の教員、管理職、事務職にメールで送付し情報の共有を図っている。 イ)NZ優秀生徒派遣やMan-to-Man On-line Philippines語学留学など打ち合わせ資料も含め、国際交流課内で積極的に情報発信をし、情報の共有に努めた。 | B |
| 事務 | 総務課 | 68 | 財務状況の改善 | ア)今年度予算に計上されている事業について重要度、優先度を再確認し、実施の是非を検討する。 可能なものについては事業規模の見直しや次年度以降への繰越を行い収支改善を図る。 イ)補助金や助成金の活用及び寄付募集を積極的に行い増収を図る。見積合せの実施を徹底し、支出削減を図る。 ウ)20,000千円の収支改善を目指す。 ※改善額の20,000千円は事業活動収支改善額と施設・設備関係支出削減額とする。 | ア)見積合せの徹底及び事業ごとに実施の是非を再検討可能なものは翌年度以降への繰越を行い、支出の削減を図った。 イ)補助金の申請を積極的に行うとともに卒業生や一般の方に向けた寄付募集(教育棟東側教室増築事業 他)を実施し、増収を図った。 ウ)電気料金の値上げ等、物価上昇の影響により収支悪化の可能性があったが、収支改善の取組みを実施し、新入生増による増収やコロナ禍(事業の中止、縮小)による経費減にも助けられ、本年度決算見通し(2月末現在)で事業活動収支が当初予算に対して約35,000千円の改善となった。 | A |
| | | 69 | 施設・設備新設・更新の計画的な実施 | ア)今年度計画されている施設・設備工事を再確認し、確実に実施する。 イ)図書館棟3階改修工事及び教育棟増築工事の円滑な実施を図る。 ウ)生徒数(クラス数)増加に伴い発生する施設・設備の不足等に臨機応変に対応する。 | ア)今年度計画されていた施設・設備工事の確認を行い速やかに着手した結果、支出削減の為、翌年度以降への繰越等を行った事業を除きすべて実施及び発注済みとなっている。(2月末現在) イ)昨年度より継続していた図書館棟3階改修工事について、大きな問題等もなく予定通り5月に竣工・引渡しとなった。教育棟増築工事についても、6月より工事が開始され、大きな問題等もなく予定通り2月に竣工・引渡しとなった。 ウ)速やかに机・椅子やロッカー等什器の手配を実施し特別教室を改修することで、新入生(クラス数)増加に伴い発生した普通教室の不足に対応することが出来た。 | A |
| | | 70 | 学納金の確実な収納 | ア)生徒・保護者には、年度始めに「授業料等納入計画表」を配付し、月初めには振替日および納入額等を一斉メールで配信。「授業料納付金収納状況」および「未納者一覧表」を毎月管理職に回覧する。 イ)オリエンテーションでの学納金説明の資料は、学務課担当者が各々内容を確認し、毎年内容を更新する。 ウ)就学支援金・奨学金給付金・授業料減免制度・各種奨学金の把握。毎年のように変更のある就学支援金・授業料減免制度については、表やグラフを用いた資料で、保護者に分かり易く伝えるように努める。 | ア)生徒・保護者には、年度始めに「授業料等納入計画表」を配付し、月初めには振替日および納入額等を一斉メールで配信。「授業料納付金収納状況」および「未納者一覧表」を毎月管理職に回覧。高校は3/1の授業料減免の返金等により、年度末には完納の見通しである。 イ)オリエンテーションでの学納金説明の資料は、学務課担当者が各々内容を確認し、毎年内容を更新する。 ウ)就学支援金・奨学金給付金・授業料減免制度・各種奨学金の把握。就学支援金・授業料減免制度と授業料の関係については、見易く表にした資料を毎年作成している。授業料減免制度は、R5年度にさらに拡充される見通しであるため、担当者間で情報を共有する。 | A |

| | | | | | | |
|---|-----|----|-----------------------|---|---|---|
| 局 | 学務課 | 71 | 入学定員の確保(中学90名、高校360名) | <p>ア)【中学】 本学の一貫教育のビジョンに賛同する目的意識が高く多様な経験を有する児童90名を確保する。中学入試の志願者(前期のみ)1.5倍以上を目指す。</p> <p>【高校】 公立上位校から本校への単願者を増加させる。定員確保を必達目標とする。入試志願者、単願180名、併願1,350名以上を目指す。</p> <p>イ)『学校訪問に関する報告書』(佐藤参与作成)およびアンケート、個別相談の内容等を読み込み、現状を把握し、広報活動に活かす。</p> <p>ウ)体験入学等の大きなイベントや、細やかな対応ができる個別相談会の運営を各々ブラッシュアップし、参加者の満足度を高める。2年ぶりの開催が予定される私立中学校フェア・中部私学展の運営については、混雑する状況を想定し、</p> | <p>ア)中高とも、「真に能力を持ち、人物優秀な生徒を集める」を目標に、運動部の入学・入部募集形態の見直しを実施。中学は入学予定93人で定員確保、高校も定員確保を目指す。</p> <p>イ)個別相談会の機会を数多く設けて、細やかな対応を行った。小学生は117人が137回、中学生は173人が187回の相談を行った。相談担当教員には若手教員も積極的に動員し、「全員で行う入試広報」を意識した。また面談カードは50音順にファイルし、個々の状況がすぐに確認できるようにした。</p> <p>ウ)出願システムmiraicompassのイベント申込機能の活用により、広報活動をスマートに行うことができている。本校に興味を持つ生徒・保護者が、ストレスなく情報収集できるような工夫をさらに進めていく。</p> | A |
| | | 72 | 特待・奨学金制度の検討 | <p>ア)「高等学校入試基準」2.出願の目安 目安点および併願9教科評定合計について検討する。</p> <p>イ)「高等学校入試基準」3.特待生(1)学業特待 飽 5教科評定合計による特待生 県内併願の5教科評定合計による特待生(令和4年度入試は、合計21以上は特待生C)の見直しを行う。イ 学力試験による特待生 併願生が公立受験を辞退しなかった場合の見直しを行う。</p> <p>ウ)国や県の就学支援金および授業料減免制度の更なる拡充が見込まれる。授業料等納付金について改定の効果を検証し、併せて特待・奨学金制度の検討を続ける。</p> | <p>ア)就学支援金制度・授業料減免制度の変更を確認しつつ、より明解な特待・奨学金制度となるように検討を継続する。</p> <p>イ)「高等学校入試基準」において、学業特待・併願について、内容の変更を行った。</p> | B |